

●ITパスポート試験で個人情報漏洩…団体申込者のシステムに不具合

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1803/13/news102.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 3月13日(日本時間)、情報処理推進機構(IPA)より、**ITパスポート試験の団体申込者に関する個人情報**が漏洩したと発表されました。
- 2月26日に2つの団体申込者がWebサイトから申し込み情報のCSVファイルをダウンロードした際、双方の情報が合わさったファイルがそれぞれダウンロードされたとの連絡があって発覚したもので、申込者の受験番号・氏名・受験日と受験料金の支払いに用いるチケット番号、および受験を終えた人の成績・合格証書番号等計137件が対象となっています。
- システムの不具合により、**2つの団体申込者が同時にダウンロード機能を使用したことで問題が発生した**としており、3月5日に不具合は修正され、当該団体申込者以外への漏洩等は確認されていないとのことです。

AUS便りからの所感等

- サーバ上にCSVファイルを作成する際の一時ファイル名として十分に一意な名前が用いられていなかった(例えば年月日と時分秒からなっていた)ため、複数の利用者がリクエストを行ったことにより、**いわゆる「競合状態」が発生した可能性**等が推測されます。
- IPAやJPCERT/CCではセキュアなコーディングを行うための資料を公開しており、奇しくも競合状態に関する問題も取り上げられていますが、これらの情報は古いものもあり、現在において通用するかどうか検討しながらあたるべきでしょう。
- そして、こういったセキュリティに影響する機能については、一から自作する前に、プログラミング言語自体が機能を提供していたり、既存のライブラリが存在していたりしないか、事前に調査することが重要です。



ITパスポート試験で個人情報漏えい 団体申込者のシステムに不具合

2018年03月13日 15時47分 公開 [ITmedia]

情報処理推進機構(IPA)は3月13日、ITパスポート試験の団体申込者が利用するシステムに不具合があり、計137件の個人情報などが漏えいしたと発表した。2つの団体申込者が申し込み情報を同時にダウンロードしたところ、もう一方の団体情報を入力できるトラブルが発生。既に漏えいした情報の被害を確認し、再発防止策を講じたという。

IPA 情報処理推進機構

HOME 情報セキュリティ 最新ニュース セキュリティセンター ツフトウェア開発情報 最新ソフトウェア 個人情報の取扱い

HOME 試験について 受験要項 プラス発表 ITパスポート試験における個人情報漏えいについて

IPAについて

プレス発表 ITパスポート試験における個人情報漏えいについて

●6年以上もこっそりとルータを介して拡散していたマルウェア「Slingshot」が特定される

<https://gigazine.net/news/20180313-slingshot-apt-through-router/>



このニュースをザックリ言うと…

- 3月9日(現地時間)、大手セキュリティベンダーのKaspersky社より、**中東からアフリカを中心に被害が報告されていたマルウェア「Slingshot」を特定した**と発表されました。
- 発表によれば、SlingshotはラトビアのMikroTik社製のルータに未知の脆弱性(その後ファームウェアにより修正)を悪用して感染し、管理者がルータ管理ツールを実行した際にその管理者のPCに感染し、PC上のあらゆる情報やキー入力を窃取していたとのことです。
- 今回特定されるまで**少なくとも6年間、Slingshotは政府関係機関等も含んだ100台以上のPCに感染していた**とされています。

AUS便りからの所感等

- Slingshotは、セキュリティソフトの動きを確認するとプログラムを中断する等の行動をとりながら**巧妙に検出を回避し、その存在を隠していた**とされています。
- IoT機器に感染するマルウェアが大きな話題となり、もはやマルウェアは内部ネットワークのどこに潜んでいてもおかしくありません。
- そういった中で我々ができるのは、社内ネットワークの全ての機器について確実に管理し、アップデートを確実に行うことにより可能な限り安全に保つことであり、ある機器にマルウェアや攻撃者が侵入されても、その活動を監視あるいは押さえ込み、別の機器への攻撃を防げるようなシステムやネットワーク構成を可能な限り構築していくことであると言えるでしょう。



2018年03月13日 13時00分00秒

6年以上もこっそりとルータを介して拡散していたマルウェア「Slingshot」が特定される

by Andres Atehortua

コンピュータセキュリティ会社のKasperskyは、キーロガーの疑いがある事例を分析している中で、仮想ファイルシステムに侵入するマルウェア「Slingshot」を特定したと発表しました。Kasperskyによると、Slingshotはなんとルータを感染経路として、2018年に特定されるまで少なくとも6年間、100台以上のPCへ感染していたことが分かっています。SlingshotはProject Sauron(Re gin)にも匹敵するほど複雑で洗練された攻撃プラットフォームとのことで、中東からアフリカを中心に被害が報告されています。